

## 2022年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2022年度日本数学会秋季総合分科会にて、2022年度日本数学会賞建部賢弘賞が、特別賞4名、奨励賞6名に贈られました。

受賞者については、「数学通信」第27巻3号の会報187でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介として、ご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載しています。

(五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。)

### 特別賞

岩木耕平（東大数理准教授）

業績の題目：完全 WKB 解析，クラスター代数，パンルヴェ方程式および位相的漸化式の研究

これまで、興味の向くままに完全 WKB 解析と様々な分野との関係性を調べてきました。この栄誉ある賞を受賞できることになったのは、家族をはじめ周囲の皆様のサポートがあったからこそと感じております。この場をお借りしてお世話になった方々にお礼申し上げます。

藤原和将（名大多元数理助教）

業績の題目：非線型分散方程式の調和解析的研究

非線型分散型方程式における解の爆発現象について研究しております。

この度は、大変名誉な賞を拝受し、身に余る光栄に存じます。今回の受賞を励みに、より一層研究に努力する所存です。この場をお借りしまして、日頃御指導下さっている先生方、支えて下さっている方々に深謝申し上げます。

松井紘樹（徳島大社会産業理工講師）

業績の題目：三角幾何学とその可換環論および代数幾何学への応用

この度は大変栄誉ある賞をいただき、身に余る光栄です。この場を借りてこれまでお世話になった先生方に深く感謝申し上げます。私は可換環論の圏論的な手法を用いた研究から始まり、Balmer によるテンソル三角幾何学の拡張およびその応用について主に研究してきました。この受賞を励みに今後も研究に邁進してまいります。

松澤陽介（立教大理助教）

業績の題目：ディオファントス幾何と数論力学系

この度はこのような賞を頂き身に余る光栄に存じます。私は代数幾何、整数論、離散力学系という複数の分野が交錯する領域で起こる数学的現象に魅了され研究を続けてきました。これからも面白い現象に出会えることを期待して研究を進めていきたいと思っております。

## 奨励賞

数川大輔（九大数理助教）

業績の題目：測度の集中現象に基づいた測度距離空間の収束理論

この度は名誉ある賞をいただき大変光栄に思います。私は測度距離空間の幾何解析の中でも収束理論の研究を行っており、特に集中現象に基づく無限次元の対象も取り入れた理論に興味を持っています。今回の受賞を励みに、より一層研究に努めてまいります。お世話になりました先生方、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

金城翼（東大数理博士後期課程）

業績の題目：コホモロジー的 Donaldson-Thomas 不変量の研究

私はこれまで三次元カラビ・ヤウ多様体の数え上げ幾何学の研究を行ってきました。一見ニッチな分野な感じがしますが、導来代数幾何や幾何学的表現論、超局所層理論などが交わるとても魅力的な分野です。この素晴らしい理論に私を導いてくださり、多くのアイデアを共有してくださった戸田先生には感謝してもしきれません。

勝呂剛志（京大数理研研究員）

業績の題目：非局所的非線形偏微分方程式のエントロピー汎関数と一様局所空間における特異極限

この度は名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。私はエントロピー汎関数に付随する函数不等式に興味があり、それらの偏微分方程式への応用を研究しております。今回の受賞を励みとして、より一層研究に精進していく所存です。この場をお借りしまして、ご指導いただきました先生方に深く感謝を申し上げます。

難波隆弥（静岡大学術院講師）

業績の題目：ベキ零被覆グラフ上のランダムウォークの極限定理に関する研究

この度は名誉ある賞を賜りまして大変光栄に存じます。専門は確率論で、ランダムウォークの極限定理を軸として興味の向くままに研究を進めて参りました。この場をお借りしまして、これまでお世話になりましたすべての方へ御礼申し上げます。今後も自分が面白いと思う数学を追究していく所存です。

森迪也（理研数理創造プログラム基礎科学特別研究員）

業績の題目：作用素環論における保存問題の研究

私はヒルベルト空間上の有界線形作用素の構造、とくに距離構造や順序構造に興味を持ち、研究を進めてまいりました。このたびはたいへん名誉ある賞をいただき、身に余る光栄に存じます。これまで私と少しでもかかわりがあったすべての方に、心より感謝いたします。今後も数理学の発展に資するべく努力を重ねてまいります。

吉川翔（理研数理創造プログラム基礎科学特別研究員）

業績の題目：偏極自己準同型を持つ代数多様体と混標数の極小モデル理論の研究

偏極自己準同型を持つ代数多様体の分類に関する研究と、混標数の双有理幾何学、特に極小モデル理論に関する研究を行なっています。この場をお借りして、日頃からお世話になっている先生方、同僚の皆様、サポートして頂いている方々に深くお礼申し上げます。